

## 技術部報告集発刊に寄せて

技術部長 花岡 裕

図らずも技術部長職を今年度も担うことになりました。通算4年目を迎え歴代部長の中でも最も長く居座る結果になりました。当初、技術部長職は第二部主事が兼任することになっていることから、主事職が消滅した時点で他に替るものと考えていましたが、第二部主事とは直接連携はしないとのことで、そのまま留任になった次第です。あれから既に1年を経過しようとしています。改めて宜しくお願ひ申し上げます。

さて、今年度の技術部の動きですが、技術部としての基盤が少しずつ整ってきたこともあり、大きな変化はなく、4月から新しい組織の下に各4系毎の活動も特に問題もなく順調に進められたと感じています。定例的な活動としては、技術部職員技術研修が新たな内容により、半数の20名の参加の下、8月26日から28日にかけて実施されました。今回は講師として初めてメーカの方にお願ひし、余りにも日常的で普段教わることもない電気モーターの講習が加わり、大変好評を博しました。技術職員の学外研修に関しては、前年度の大幅な運営費増額に加え、技術職員旅費として今年度に限り増額が認められ、例年になく、活発に行われました。この技術職員旅費増額に関しましては、次年度以降も継続して頂きたいものです。

今年度の新たな動きとしては、文部省主催の国立学校等技術専門官研修（8/26～28）ならびに地区別技術専門職員研修会（11/9～11）がそれぞれ東京大学と北海道大学を会場に行われました。前者の研修会には、電気情報技術長の佐藤技術専門官、北海道地区に関しては、塩崎、沓沢、野崎3技術専門職員が参加しました。それぞれ自らの研究発表を含む技術研修、見学会が中心であったように聞いております。来る第7回技術部発表会（3/24）にその内容が報告される予定になっております。その他、1月19日には高エネルギー加速器研究機構（KEK）技術部主催の第2回意見交換会が開催され、本学からは門脇技術専門官と小林技術専門職員の両名が研修を兼ねて参加、本学技術部の活動状況が報告され、意見交換が行われました。このように、技術部そのものの外部との接触が生じたことが特記されますが、今後益々の活動強化が望まれます。

さて、技術部を含む大学全体の動きとして、極めて衝撃的に外的な動きが次第に明瞭になって参りました。云うまでもなく、国立大学の独立法人化を巡る動きです。学内にも、すでに設置形態検討会なる組織が設置され、勉強会や本学としての対応策等について議論が始まっておりますが、具体的な論議はむしろこれからの状況であり、本学の教育研究支援組織である技術部としても目を離せない状況が続きます。またこれとは別に、今年度、新たに本学は外部評価を受けました。大学全体の講評と各部局毎のヒアリングを通しての評価でした。最終的な評価の全貌は明らかではありません。

せんが、総じて、本学は他大学と特別変わることはなく、むしろ今後如何に特徴を出すか、本学がどのような人材を社会に送り出そうとするのか外から見えるイメージを早急に構築すべきとの要望が多く外部評価委員から出されました。本学として、さらには技術部としてこれらの声を厳粛に受け止めなければならないと感じております。

最後になりますが、今年度、初めて落合、中村技術専門官が技術部として定年退官されます。両名とも現在の技術部を積極的に引っ張って来られ、多くの貢献を果たして来られました。改めて、これまでの功績に対する御礼と、今後の御健勝を祈り巻頭言とさせていただきます。